

加古川河川敷の牛の放牧



加古川の河川敷を牛の放牧地とした。戦後の頃まで各農家で牛を飼育し、役牛として使うとともに、食用にも資した。昭和30(1955)年ごろから耕運機の登場とともに牛の飼育が途絶えた。

放牧地は消え、現在牛の姿は見えず、河原には葦が繁茂している。相生橋の北側、加古川左岸の崎宮神社から見たところである。同右岸に三菱製紙(株)高砂工場の煙突が見える。



放牧している牛には鼻輪（鼻木）が見える。同牛は役牛であることが確かめられる。

